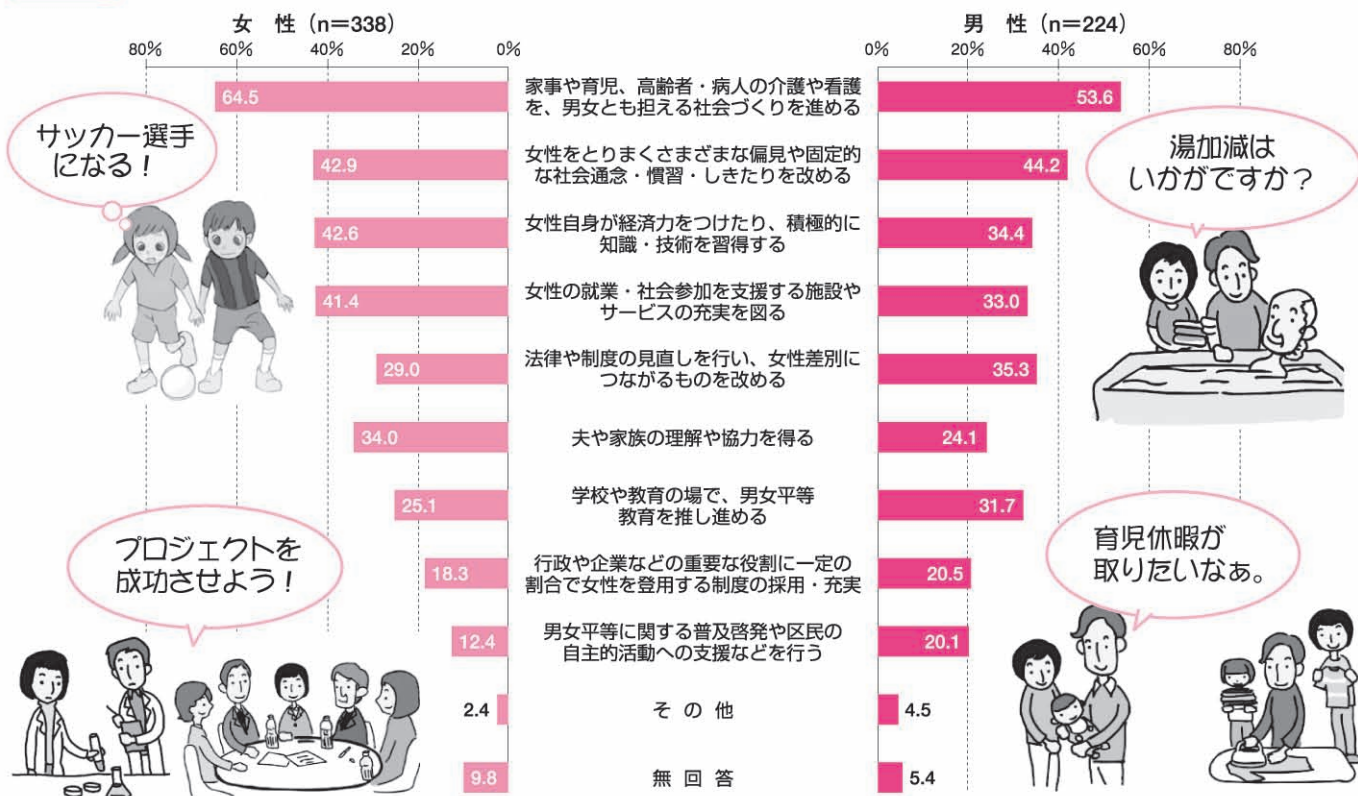


Q5

男女共同参画実現のために必要なことは何ですか？



A 「家事や育児・高齢者病人の介護を男女ともに担える社会作り」が求められています。

住民意識調査からわかった今後の課題

①男女共同参画社会形成の重要性

「男は仕事、女は家庭」という考え方に肯定的な人ほど『男女平等になっている』と感じている傾向があり、否定的な人ほど『男女平等になっていない』と感じている傾向があります。また、「家事専業」の方が『男女平等になっていない』と回答している率が最も高く、不平等感の解消が求められています。

②固定的な性別役割分担意識解消に向けた取り組み

「家事は女性の仕事」という考え方について、男性の5割以上が肯定的で実際の家事について7割以上の人が「妻の担当」「どちらかといえば妻の担当」と回答しています。今後は、男性の家事能力を高める取り組み等、家庭生活への参画を促す取り組みを強化していく必要があります。

③ワーク・ライフ・バランスの推進

「仕事」と「家庭」と「地域・個人の生活」の両立について、理想と現実にかい離がありました。今後は、企業のワーク・ライフ・バランスへの理解を促進し、育児・介護を可能とする職場風土づくりを関係機関と連携して進めていきます。

④配偶者暴力に関する知識と理解が重要

女性は、5人に1人がなんらかの暴力を受けた経験があり、このうち、6割の人が「相談してもむだだと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」等の理由で相談をせず、問題が潜在化しています。DV防止のための情報提供や相談機関を周知していくことが求められます。

⑤女性が政策・方針決定過程に参画する必要性

女性が政策・方針決定過程に参画するためには「区が女性職員の管理・監督者を登用する仕組みづくり」が必要だと回答した人が2割と低く、その重要性が意識されていません。男女ともに共通認識がもてる意識啓発と、具体的な仕組みづくりが必要です。